

平成 25 年度第 1 回帯広市環境審議会 議事録 (概要)

日時：平成 25 年 6 月 24 日 (月) 13:30～16:00

場所：市役所 10 階第 5B 会議室

○出席者

委員：梅津一孝会長、今出富貴子副会長、明石憲宗委員、石井洋委員、佐々木直美委員、
佐々木留美委員、鈴木大民委員、田沼誠子委員、橋本靖委員、林正剛委員、久永恵子委員
松岡薫委員、松原悦子委員、谷津恵子委員

事務局：嶋崎市民環境部長、長江環境担当調整監

環境都市推進課 西川補佐、西島係長、林中係長、斎藤主任補、富田主任補、石山係員

1. 委嘱状交付式

○出席者 14 名に委嘱状を交付

○米沢市長あいさつ

2. 平成 25 年度第 1 回帯広市環境審議会

○審議委員からの自己紹介

○事務局員の紹介

○審議会成立の報告

○会長・副会長の互選

梅津会長、今出副会長に決定

○梅津会長、今出副会長あいさつ

○報告事項 1 環境白書について

平成 24 年度版帯広市環境白書 (第 43 号) について説明

【事務局 西島係長】

1 ページ～20 ページ 「第 1 章 環境行政の概要」、「第 2 章 帯広市の概要」、「第 3 章 環境の施策・
現況 1. 施策・事業」について説明

【事務局 林中係長】

21 ページ～41 ページ 「第 3 章 環境の施策・現況 2. 現況 (1) 生きものとの共生：人と生き
ものがともに快適に暮らせるまちづくり (2) 公害規制：みんなが安心して暮らせるまちづくり」
について説明

【事務局 石山係員】

46 ページ～50 ページ 「第 3 章 環境の施策・現況 2. 現況 (4) 地球規模での環境保全：地球
の未来を考えたまちづくり」について説明

【事務局 富田主任補】

57 ページ～63 ページ 「第 4 章 帯広市の環境活動の取り組み」について説明

【松岡委員】

ゴミ問題についてなんですけれども、札内川の河川敷のゴミが多くなっています。あの辺りは開発の管轄だと思うんですけれども、例えば帯広市内でゴミ投棄があった場合とか、住民から電話があった場合にどういう対応をされているのでしょうか。河川敷の場合ですと大きいものだと開発が持って行ってくれますし、こちらのほうでゴミ拾いをした場合も可燃と不燃に分けた場合は、料金がからずに処理してくれるような事があるので帯広市の場合もそういった事はありますか。

【事務局 長江調整監】

基本的に不法投棄については敷地管理者が責任を負うという事になっておりまして、道路、空地等について市有の所があればそうでないともあるので、それぞれ対応しています。まずは、不法投棄があれば清掃事業課のほうに電話1本入れて頂いて、どこにありますという事をお伝え頂ければ、そこを管理しているところに連絡を取って対応するようにしております。その時の状況にもよりますが、基本的にはそれぞれの管理者が回収にまわります。ただ民地などについては、投げられ損かと市民の方から怒られることがあります。空地、私有地のところの不法投棄は行政が税金を使って処理をしておりません。不法投棄の対応については連携を取り合っているところであります。

【鈴木委員】

資料に載っていないんですけれども、今問題になっている犬の糞ですね。糞害と呼ばれますけど、その点について、今、大阪では罰則がある条例がありますが、帯広市ではどういう対応をしていますか。

【事務局 長江調整監】

犬の糞であったり、煙草のポイ捨てなどのポイ捨てを防止する条例を作って罰則を設けて取り締まってはどうかというご意見は、市民の皆様の方からも、また議会の中でも論議になってきたところがございます。そういう中であって帯広市としては、エコフレンズ等市民の皆様との協働の中で、モラルの向上を図りながら、清掃活動をして、なんとか対応していきたいと考えています。まずは、条例等で罰則を設けたり、規制をしたりする以前にまだ出来る事があるのではないだろうかというところで今、頑張っているというのが正直なところ。今、モラルの低下ということがいろんな意味で言われているところでありますし、また、町内会等の加入率が低かったりと、市民間の連携など、だんだんと力としては落ちてきているところがあるのかなと考えています。なんとかそういったところを見直して、少しでも規制によらない環境の保持、向上を目指したいと考えているところでございます。

【松岡委員】

ウツベツ川の調査で、ふん尿がちょっと多いとあったと思うんですけれども、そういった場合、例えばこの基準を超えれば市民に周知するだとか、看板を立てるなどの基準は何か決まっていますか。

【事務局 林中係長】

ウツベツ川については、糞便性大腸菌群数が他の河川に比べて若干高いという事ではありますが、環境基準ですとか水浴の基準というのは実はありません。ですが、準用するとすれば海水浴場等で水浴する基準という数値がございまして、その数値よりは低いという事になっているものですから、問題はないと判断しております。この地区は地域の方が管理・運営を協議会形式でやって頂いている地区でございますので、毎年協議会の中で、私どものほうから河川細菌の状況についてお話をさせて頂きな

がら運営して頂いている状況でございます。

【梅津会長】

糞便性の大腸菌群数については、概ね低い値で推移しているのですが、桁が十倍で出ているところがあるんですけれども、これは、どういった事か明石さん何かありますか。

【明石委員】

主要な原因は家畜ふん尿の直接的な流入があるとは思いますが、どこから入っているかを見つけることは困難なんだろうと思います。必ずしも家畜ふん尿と限ったわけではもちろんないでしょうし、取扱いについては慎重にする必要があると思います。

【梅津会長】

これは、降雨などと関係はあるのでしょうか。

【明石委員】

もし家畜ふん尿が原因だとすれば、たくさん雨が降った時に、堆積しているところから流れ出て直接的に入ってしまう場合に、糞便性大腸菌が高くなる可能性があります。通常堆積している場合では、浸透して地下水として出てくるような場合には、このように急激に高くなるようなことは多く見られませんので、やはり、直接的な流入、降雨の時の流入が可能性としては大きいと思います。

【梅津会長】

温室効果ガスの排出量の算定の仕方が従来のものと変わったとありましたが、これは環境省が出している係数みたいなのが変わったという事なのですか。

【事務局 富田主任補】

その通りでございます。

【梅津会長】

温室効果ガスの排出量の計算の仕方ですが、これは使った燃料から算出していると考えていいのでしょうか。

【事務局 富田主任補】

ガソリン、軽油、灯油、A 重油、液化石油ガス、都市ガス、電気を帯広市役所で使っていますけれども、例えば軽油でしたら 1L あたり 2.58 kg の二酸化炭素が排出されますが、こうした係数が毎年、環境省と経済産業省の連携によりまして発表されております。そちらをもとにして、二酸化炭素の排出量を計算させて頂いております。電気については北海道電力ですが、平成 22 年度の実績としては 1kWh 当たり 0.353 kg の CO₂ 排出量、23 年度は 0.485kg となっており、同じ 1kWh 当たりでもこれだけ CO₂ の排出量に差が出てくることとなっております。

【梅津会長】

メタンとか一酸化二窒素については、どのように算出しているのですか。

【事務局 富田主任補】

こちらにつきましては、基準がございまして電気のもとになるものが、火力であったり、水力であったり、原子力であったりと、それぞれエネルギー源というものがございまして、それによって電気に係る排出係数は大きく変動しますが、メタン、一酸化二窒素の係数はほぼ毎年同じような数値になっていますので、電気程の変動の影響はない状況です。

【梅津会長】

メタンとか一酸化二窒素の排出の起源は、どのような数字をもとに算出しているのですか。

【事務局 富田主任補】

メタンにつきましては、主に下水道の関係です。一酸化二窒素につきましては、公用車の燃料であるガソリン、軽油の使用に伴い排出されています。

【橋本委員】

自然環境の保全関連の話ですけれども、23 ページの上のほうに市民と一丸となって自然とふれあい、自然との共生に向けて取り組むとなっていますが、4 ページの森林面積の減少率ですが、目標自体が0%となっています。もうちょっと前の部分を見ると開拓によって減ってしまったとなっていますが、これから森林を増やす方向になっていると思うのですが、0 になっているのでちょっと不思議に思った部分があります。もちろん森林があればいいってわけではないってというのは重々承知しているのですが、どうなのかなと思ったので、教えていただければと思います。

【事務局 林中係長】

お話の通り、理想としてはやはり CO₂ の吸収という観点から、森林というのは当然、増加というものを目指していくべきもと思っています。ただ一方で、経済林などについては一定の伐期が来た時点で安全の観点からも、一旦木を切る事が必要な時期がございます。ですから、それに対しましてミチゲーション、それに対して代替で切ったら植えるという事をワンセットでやっていくという事の考え方で、目標として今よりも減らないようにするという事を目標として掲げているという事でございます。それに対しまして、残念ながら、若干増やす方が滞っているため -0.07% という事になっているという事でございます。

【橋本委員】

よくわかります。もちろん森林を更新して産業用に出していく場合は回転するっていう事もありますし、回転させる事によって CO₂ の削減に繋がる事もわかりますが、市街地の人が住んでいるエリアですと、徐々に増えていくのが自然な感じがするんですよね。一旦開発して、だんだん人の考え方も変わっているので、もしかして増えているのが自然なのかなと思ったら、0 になっているので、住んでいる人達の認識が変わっているにも関わらず、現実として0 というのが気になる事だったので質問させて頂きました。ありがとうございます。

【松原委員】

太陽光発電システムの設置なのですが、23 年度以降増えていて、とても好ましいことです。原発問題が発生して、その後増えてきたと思うのですが、設置を希望する理由として環境を大切に思って設置を希望しているのか、それとも、買い取ってくれるからという経済的な理由が大きいのか、どちらだと思われませんか。

【事務局 石山係員】

導入される家庭の方々の負担はやはり少ない金額ではありませんので、1 番念頭におかれているのは導入資金の回収だとは思いますが、導入された方々はモニターを設置して、今どれだけ発電をしているか、どれだけ売っているか、一目でわかるようになっています。アンケートを最近では実施していませんが過去に行った結果ですと、導入して以降、電気使用量の削減に対する意識が高まったというようなご回答を圧倒的に多くの方から頂いておりますので、きっかけとしてはまずは費用の回収というのが念頭にあったと思いますが、導入後、実際に触れてみて地球環境に対する意識の啓発に繋がったと私は考えております。

【松原委員】

この事業はこれかも継続されるのでしょうか。

【事務局 石山係員】

今年度も継続して実施しております。来年度以降については、まだ予算化されておられませんので未定となっております。

【松原委員】

一件あたりの補助金は減りましたが申し込み者は増えているのですか。

【事務局 石山係員】

需要は増えると想定しておりますので、昨年ご用意しておりました 350 件という件数から更に上乘せしまして 400 件という予算件数になっております。

【佐々木直美委員】

先程河川の大腸菌群のお話が出たのですけれども、要因として家畜のふん尿というお話が出ました。十勝では農業関係の方が多いと思うのですけれども、最近、循環型の農業という事で放牧豚とか放牧牛によって土壌を作って、そこで作物を作るというリサイクル型の農業が盛んに行われているようです。酪農により出るふん尿は、最近はバイオエネルギーとして活用されたりしている様なのですが、どういう風に利用されているのでしょうか。

【梅津会長】

私の専門ですのでご説明させていただきますけれども、畜産はいっぱいふん尿が出てくる産業です。1Lの牛乳を搾るのに、大体4倍くらいの排泄があります。豚肉1kg作るのに、その65倍くらいの排泄があつて、牛肉1kgですと110倍くらい、110kgの排泄をするという事で凄いな量が出てきます。この辺りの酪農家は今、平均で100頭位の牛を飼っています。大体1頭あたり60kgから70kgの排泄があるので、1日に6tから7tの排泄があります。そうすると1件の酪農家でも年間2千t以上の排泄物があります。北海道の場合、皆さんある程度の土地を持っているという事で畑の肥料として使うって事を昔からやられていましたが、近年はどんどん大規模化が進んできて、農家の数は減っていますが、家畜の数は同じ位のままで、1軒の農家が飼う頭数が増えています。今1軒当たり2千kgのふん尿を扱わなければならない、畑の肥料として使えない部分もあります。1999年に農林水産省が家畜のふん尿の管理をちゃんとしなさいという法律を作って、今は屋根のかかったところで家畜の排泄物を管理してそれを堆肥として畑に返すというルートが一応出来上がっています。帯広は別にしても、十勝管内には人口よりも牛の方がいっぱいいるため、ふん尿処理の心配はずっとありました。これまでは、ふん尿処理を一生懸命やってもあまりお金にならなかったためなおざりになり、生産物を作るほうに労力を費やしてきました。しかし、環境が変わってきて、そもそもふん尿を外に撒き散らすようなやり方っていうのは認められなくなってきたいて、以前に比べると随分良くなっていると思います。一時はこの報告にもあるとおり、地下水の調査では硝酸の濃度が高かったことがありました。最近是非常に良くなっていると言えらると思います。でもますますふん尿の適正処理を推進する必要があると考えています。認識は色々な形があると思いますが、私はそのように認識しています。

【佐々木直美委員】

農家さんは個人個人がふん尿の処理をしているのでしょうか。

【梅津会長】

そうです。他の産業と1番違うところは産業の終末処理までやる必要があります。酪農は乳価が決

まっぴいて、繰りかえしになりますけれども、ふん尿処理を頑張ってもあまりお金にならないような形態でした。今だんだん変わってきて、オーガニックミルクなど、やはり環境に高い関心を持っている農家は評価されるようになり、その差別化はこれからもっと進んでいくと思います。

【佐々木直美委員】

ふん尿の処理で出てくるバイオガスなどを使って、温室栽培を行っているということを最近知ったのですが、バイオガスのエネルギーとしての将来性、発展性はあるのですか。

【梅津会長】

鹿追町などで数年前からバイオガスについて熱心に取り組まれています。以前は太陽光で発電した電気を高い値段で電力会社に売る事が出来ましたが、バイオガス発電による電気はあまり高く売ることが出来なかったため、発電の経済性は良くありませんでした。去年の7月に再生可能エネルギーの全量買取制度が始まり、バイオガスで発電すると1kWh当たり約40円で売ることが出来るようになりました。極端な事を言うと、買う電気の倍位で売ることが出来ます。これからは経済性から、どんどん普及していくと思います。しかし、残念ながら電気は発電所で発電して皆に供給するために電線が張り巡らされていますが、末端で発電して、電線に繋げて全体の送電網の中に電気を入れるという事になると、これまで家畜を飼っているところは電気をあまり使わないことから、細い電線しかないところで100kWとか200kWの大きい発電をしようとすると、線が細すぎて繋げない。また、再生可能エネルギーのうち太陽光発電は設置しやすいことから、大手資本がこの辺にメガソーラーなどの多くの太陽光発電を設置していて、バイオガス発電をやろうとしても変電所の容量が決まっています電線に繋げないという弊害が出ています。変電所への接続は早いもの勝ちですが、バイオガス発電をやろうとしたら営農の事を含め地域全体で案を練り上げていくため時間がかかり、太陽光発電に先を越されています。でも太陽光発電が悪いと言っている訳ではなくて、再生可能エネルギーとして入っているのでもいいのですが、地域の産業と関連したふん尿の処理によるエネルギーが入りにくい状況になっているという側面があり、可能性はありますが簡単ではないという弊害があるという事です。

○報告事項2 環境モデル都市の取り組みについて（平成25年度主要事業）

【事務局 西川補佐】

環境モデル都市の取り組みについて（平成25年度主要事業）について説明

【佐々木直美委員】

発電事業実施を希望する民間事業者に市有地を貸し付けるというのは、具体的にどのような内容の事業なのでしょうか。

【事務局 西川補佐】

通常であれば民間の方々が土地を用意して、そこでメガソーラーなどで発電を行っていくのですが、帯広市では未利用の土地がありますので、そういったところを有効に活用して頂きたいということで貸付を行おうと考えております。

【鈴木委員】

河川内の流木の利用なのですが、原料は流木ですが、経済的には運賃が問題となると思うのですが、この運賃はどこが負担するのですか。

【事務局 西川補佐】

従前は開発建設部のほうで廃棄物として、運賃、処理料を出して処理しておりました。そこで開発

建設部と致しまして、処理料がかからないで受入れしてくれるのであれば、遠くまで運んでもトータル的に安くなるということで、運賃は開発建設部で負担しております。

【鈴木委員】

チップ化は事業者がやるという事ですか。

【事務局 西川補佐】

はい、その通りです。

【梅津会長】

ダムでも流木がいっぱいあるという話を聞いていますが、河川だけなのですか。

【事務局 西川補佐】

はい、河川だけです。

○報告事項3 環境モデル都市行動計画の次期5ヶ年の取り組みについて

【事務局 斎藤主任補】

環境モデル都市行動計画の次期5ヶ年の取り組みについて説明

【鈴木委員】

帯広の森を含め30万本の植樹計画がありますけれど、これは民地を含めてですか。それとも帯広市の土地に限定するということですか。

【事務局 斎藤主任補】

民地を含めてという事です。

【鈴木委員】

道内の場合、色々な補助金などがありますが、全部市で負担するのでしょうか。

【事務局 斎藤主任補】

現在、みどりの課で今年度は予定数に達したため募集が終了していると思うのですが、記念樹の贈呈等をやっており、ご家庭の中で植樹というものをやって頂くというような取り組みを含めた内容になっています。

【鈴木委員】

そうすると、公募で締め切りになれば終わりということですね。

【事務局 斎藤主任補】

そうですね。その他にも、耕地防風林の補助のほうも行っております。

【佐々木直美委員】

私は帯広が好きでこれからも帯広に住み続けたいと思っているのですが、様々な問題があると思っています。人口の減少ですとか高齢化ですとか、これからそういう大きな波がどんどん押し寄せて来ると思っています。その中で、人を呼び込めるくらいの素敵なまちになればいいなと思っています。外から見て帯広は良いところだから定住してみたい、住んでみて凄く住みやすい、というまちになればいいなと思っています。そのような形を作るための環境モデル都市行動計画だと思うのですが、1から作り上げていくのは凄く難しいと思いますが、何かこのまちがモデルになるとか、こんな風な素晴らしいまちがヨーロッパでもアメリカでも何処でもいいのですが、そういうまちにしようなど、何かそういうものがあれば教えて頂きたいと思います。ケースバイケースでそれぞれ違いがあるので難しいと思うのですが、帯広で取り組んでみよう、または、分かりやすいビジョンが見えるも

のがあれば紹介して頂きたいと思います。

【事務局 嶋崎部長】

現在、帯広市では第六期総合計画というものを掲げてございまして、その都市像というのが人と環境にやさしい田園都市おびひろという事でございます。そういった意味では環境というものを1つのベースと致しながら、やはり委員がおっしゃるような取り組みを1つずつ積み重ねていき、それが結果として魅力ある、あるいは外から帯広っていいなと思えるようなまちづくりを皆さん方と一緒にしていこうという事でございます。2050年のCO₂削減50%以上についても、それぞれ皆さんの1つ1つの生活なり、行動なりといったものが積み重なってしか出来ないものだと考えてございますので、どういう形になるかは現在進行形なため分かりませんが、そういう目標、帯広の森もそうですし、そういうような形で進めていきたいというのは今の総合計画の考え方でございますので、どうぞご理解とご協力をお願い出来ればと思っております。

【梅津会長】

今委員がおっしゃられたように、帯広は凄いいところだなと思って皆来てくれるようなまちにやっばり私達がしていく必要があると思いますが、この報告書（環境白書）にもあるとおり生物多様性保全の観点から色々な帯広の動植物の調査がありましたけれども、本当に希少な種がいるということで、皆にもっともっと来てもらうという事も必要だと思います。私は自転車通勤をしていますが、欧米、特にヨーロッパなどのいわゆる環境都市と言われているところは、皆さん頑張って自転車に乗っています。帯広は冬寒く積雪があり、これは大きな観点かなと思います。ドイツとかスウェーデンは結構暖かいところですが、帯広もこれから夏は自転車に乗れるような、この中にもそういう必要性みたいなものがありましたけれども、冬の除雪なんかの兼ね合いも考えながら自転車道などの整備が進んで、夏は早い時期から皆さん歩くような街になればいいなと思います。先ほど太陽光発電の事を色々言いましたが、この中にもあるように、こちらは天気が良く青空の多い素晴らしい気候だと思いますので、太陽光発電に限らず、日照の豊富な環境などを魅力の1つとしてPRしていったらいいと思います。

【谷津委員】

商工会女性会ですが、今度、富良野の女性会が帯広に来てくれるのですね。富良野の商工会の皆さんをどこに案内したらいいかっていう事を皆さんで話しをして、富良野じゃなくて帯広にあるものという事になり、お昼は豚丼を食べて、お花は富良野のほうがたくさんありますので、「ばんば」はどうだという事になり、今のところ豚丼とばんばに富良野の皆さんを案内しようという事で意見をまとめています。私も札幌から帯広に来てウン十年になりますけれども、帯広が大好きで、札幌の友達も私が帯広はいいって言うのがわかる、青い空と空気もおいしいし、お花も綺麗だと言ってくれていますので、富良野の人達にも快適に楽しい思い出を作って帰っていただこうと今調整しているところです。

【佐々木留美委員】

私は子育てサークルをやっていて、私自身も5歳と3歳の子供がいます。サークルにいるのは2歳とか3歳のまだ保育園に行っていない子どもの親や、妊婦さんが来ていますが、私がこの内容をもっと詳しく知って、皆に伝えていきたいなと思っています。1人目の子どもはいるけど2人目、3人目の子供がいない家庭をサークルで見えています。子どもが1人増えるという事は凄いい事だと思うのですが、こういう安全なところで子育て出来ることを益々、皆に伝えていきたいと思っています。

【松原委員】

個人的な事なのですが、帯広の森で 30 万本植栽計画がありますが、よく庭に白樺の木などの芽が出て大きくなっています。でも家庭の庭では大きくなり過ぎて育てられないんです。それで、帯広の森に植えさせてもらえないのか、勝手に植えたらダメなのかと色々考えているのですが、植栽計画があるから、個人が勝手に植える事は出来ないのですか。

【事務局 嶋崎部長】

公園には公園の管理者がおりますし、河川には河川の管理者がおります。あくまで個人の財産でありますし、また、移植するという事になれば相当の費用もかかって参ります。そういうお気持ちでお庭に植えていただいたりしながら、皆さんで出来る範囲でやって頂く形になってございます。それから、苗を募集するような事業という事を考えていけばそういう事もあるのかもしれませんが、皆さん方の思いが出来るだけ伝わる形で、各種事業に取り組めないかということを考えているところでございます。

【松原委員】

春先にみどりと花のセンターで緑のフリマをやっていて、私も 3 年程続けて参加していますが、やはり大きくなる木は誰も振り向いてくれないんです。家庭では育てられないんです。前に公園の街路樹にどうか聞いてみたら、あまり小さいと雪に負けちゃうからダメなんだよねって言われて、それもそうだなと思っていました。でも生きているし、捨てるのは可哀相だなんて思いつつ、でも家庭では育てられないなって思いながら、どうしたらいいのかなと思っています。

【事務局 嶋崎部長】

改めてそういうご意見があった事は担当の部署のほうにもお伝えさせていただきたいと思います。

【田沼委員】

私は大空町に住んでいます。ここにも堆肥の事が書いてあるのですが、毎年秋に団地住民が全員出て、落ち葉を集める作業を致します。たくさんの大きなビニール袋を市から頂いて、何百袋の落ち葉を集めています。そういう事が堆肥として実験すると書かれていて、本当によかったなと思っています。今、子どもが育っていく中で私達の暮らしが全て循環して互いに生きているところを、子供達に経験しながら成長していってもらいたいと思っています。たくさんの事業があるでしょうけれど、子供達に循環型の社会の中で私達は生きているという事を伝えていくことにもっともっと力を入れて頂きたいと思っています。大空町にはたくさんの方が住んでいて、毎日、目の前を走っているのですが、そういう森の中で共に生きていること、落ち葉も堆肥になって地に返っていくということを子供達が参加して、暮らし中で理解することは大事だなと思っています。「はぐくむ」がございしますが、とても丁寧に市民に対して発信をしてくれています。「住・緑まちづくり」の 1 番上に、100 年の大計と書かれていて、森林の育成というのは自分達の代では全然終わらないような長い年月がかかるけれども、そういう中で共に生きるという事を直接的に子供達が体験できる、子供達を巻き込んでいくことができることが十勝においては可能ですし、大都会ではないここ田園都市の中で進めて頂きたいと思っています。

【梅津会長】

ありがとうございます。環境の色々な取り組みは一般的に言われる事ですが、お母さん方がその気になって家庭でやると、子供達もやって、学校教育がうまく連携することで、啓発と教育が一緒にな

り凄い効果が生まれてきます。そういう教育を受けた子供達は環境に対する認識が高くなりますので、今言われたように取り組むことは非常に大事なことだと思います。

【橋本委員】

こちらに住むようになってから気になっているのは街路樹の、もちろん管轄が違う部分があることは承知しているのですが、帯広の街路樹の樹種が画一的なのが気になっています。もちろん落ち葉の管理とか枝の管理とか非常に難しく、行政としては簡単ではないというのは重々承知していますが、もうちょっと道端などの緑の作り方を、具体的な例がなく申し訳ありませんが、工夫されると、もっと道路際の見栄えが良くなって非常に良いと思います。樹種の選定などによって、管理をしなくても綺麗に花が咲くとか、上手く育ってくれる樹木とかがあると思いますので、こういった木を植えることで道路が良くなるのではないかと思います。

【石井委員】

先程、帯広市環境モデル都市行動計画についてご説明されていましたが、その中で雪氷エネルギーの導入ですとか、小水力発電の導入という項目がありましたので、可能な部分について教えて頂ければと思います。

【事務局 斎藤主任補】

創資源・創エネのところに小水力発電と雪氷エネルギーについて記載があります。小水力発電については、今後の計画なのですが、十勝中部広域水道企業団のほうで管の中に歯車を入れて発電する、そういう仕組みによって発電が出来ないかという事で検討を進めています。雪氷エネルギーについては、現在、民間の銀行さんですとか一部企業さん、あとは川西のカーリング場などで導入されていますが、冬場に電気を使わないで氷を作り、それを夏場に冷房用として活用するという取り組みがされており、こうしたものを市全体で進めていくというのが内容となっています。

【梅津会長】

小水力発電や雪氷エネルギーというのは分かりづらいと思いますが、小水力発電については、随分これまでと条件が変わってきていると聞いていますし、雪氷については寒いところなので冬の寒さをエネルギーとして利用することは、地域性から私達がやる価値があると思います。

【林委員】

私達、青年会議所のほうでクリーン・キャンパスとして、まちの中のごみ拾いを通じてゴミを捨てない心を育てる活動を行っています。まち全体を綺麗にするには、皆で取り組んでいかないといけない事だと思いますので、そういった心を育てる活動のほうにも力を入れて行って頂きたいと思います。

【梅津会長】

ありがとうございます。先程も家庭内の事だとか、学校での教育の事だとかありましたが、最終的には今言われた通り、心を育てるといことは大切なことで、そういう観点も中心に据えることは重要な事だと思います。

○報告事項 4 その他

【事務局 長江調整監】

特になし

【梅津会長】

それでは用意した報告は以上でございますけれども、何かございますか。今出先生、何かございますか。

【今出副会長】

私が日々心掛けている事は、子供達が気持ちよく安心して過ごすということがとても大事な事だなと感じています。子供達の周りにはいる親や地域の方々も、心を穏やかに生活するっていうのはとても子供達の成長に大切なのかなと思っています。ゴミのないところが気持ちいいとか、自然の中で四季折々の変化を感じて思いっきり遊ぶことが心地よいとか、そういうような事を私は周りの子供達と大事にしていきたいと思っています。そういう子供達が、帯広の青空は素敵だとか、空気が美味しいという風にいろんな友達を連れて、また、大人になった時に帯広に戻ってきてくれて、帯広の発展のために一翼を担ってくれればいいと思いました。今日、皆さんの話を伺い、明るい気持ちになりました。

【梅津会長】

ありがとうございました。それでは審議会のほうはこれで終了してよろしいでしょうか。それでは本日はご多忙のところ長時間にわたりありがとうございました。